

10. ブナ林地帯における天然林施業について

一関営林署 ○小国敬篤
齊藤 晃

1. はじめに

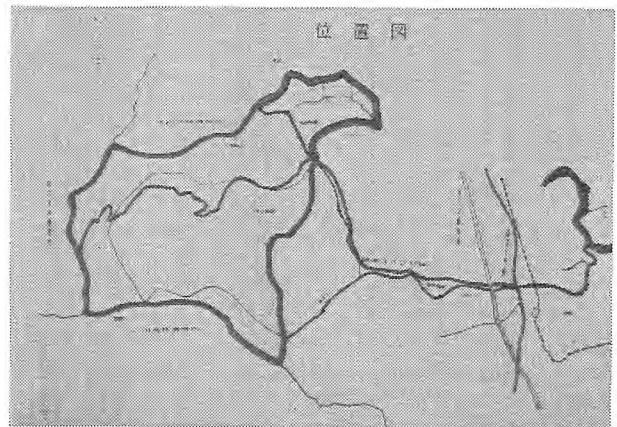
当署においては、森林の有する多面的機能を総合的に発揮することを旨とし、積極的に天然林施業を推進してきているところである。

近年ブナ林については、自然保護等、その伐採に対する意見や要望が多く出されている。

このような背景の中、岩手クマゲラ研究会より、祭時山国有林内のクマゲラ生息に関する情報提供があり、早速、現地調査することとなり、クマゲラ生息調査と今後のブナ林伐採に関する諸問題を考え、どのような天然林施業を実施するかを検討するものである。

2. 林況

(1) 情報提供のあった地区は、人工林 201 ha、天然林 450 ha で、現在、直営生産事業を実行しており、ブナ漸伐天然下種更新は 20 ha となった。(図-1)

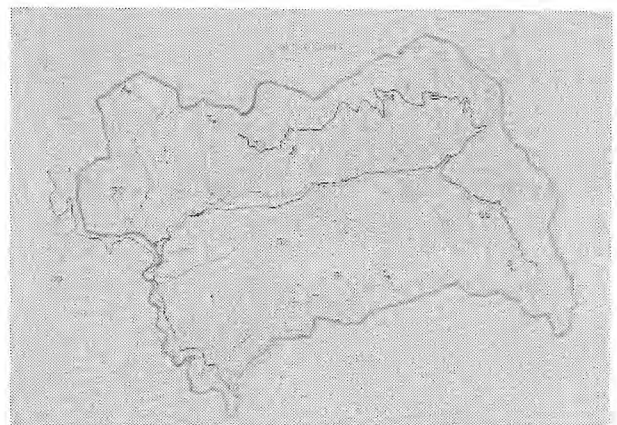


(図-1) 位置図

(2) 情報提供箇所等は、巣穴木位置図のとおりである。(図-2)

「位置図説明」

- A地点… クマゲラの目撃情報
- B地点… 過去の営巣木
- C地点… 営巣可能木
- D地点… 目撃、鳴き声の確認
- E地点… 当署によるクマゲラ生息調査で新たに発見した営巣可能木とみられるもの



(図-2) 巣穴木位置図

3. クマゲラ生息調査結果及びB地点周辺における天然林施業について

(1) 岩手クマゲラ研究会の案内により、B地点及びC地点の2箇所を調査した。

また、新たに発見したE地点については、署による営巣可能木の判断がなかったため、岩手クマゲラ研究会と現地確認をした。

ア. 生息調査により、発見した巣穴木の現況について(写1～6)



(写-1) B地点の過去の営巣木



(写-2) B地点の巣穴



(写-3) C地点の営巣可能木



(写-4) C地点の巣穴



(写-5) E地点の営巣可能木
とみられるもの



(写-6) E地点の巣穴

イ. B、C、E地点の巣穴木の特徴に
ついて(表-1)

これら3地点の特徴を比較するとほぼ同一のものであり、巣穴木は、通直な大径木でやや前傾しており、視界の開けた風当たりの弱い箇所にある。

巣穴は、ほぼ楕円形を呈している。

地点	樹種 (種名)	樹高 (m)	樹径 (cm)	傾斜 方向	樹冠 (m)
B	クマゲラ	1.2	1.0	南西	1.0
C	クマゲラ	1.4	1.0	北西	1.2
E	クマゲラ	1.0	1.2	南	1.0

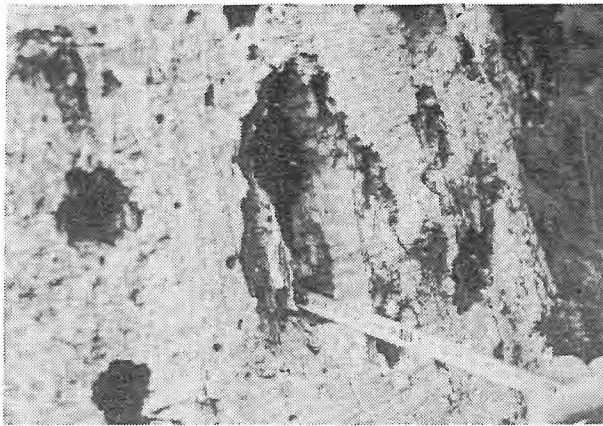
(表-1) 巣穴木の特徴

(2) 岩手クマゲラ研究会の情報提供及び、
当署による生息調査で発見したクマゲラの採餌木らしきものについて、森林総合研究所東北支部の由井正敏先生に現地確認していただいたところ、一部の食痕跡がクマゲラのもものと判明した。

(写7~9)



(写-7) 現地調査状況



(写-8) 採餌木



(写-9) 採餌木

(3) B地点周辺における天然林施業について

ア. 直営生産予定箇所である53い1林小班周辺については、当署のスタッフを集め、現地調査を行った。

(写-10)

林内では、ブナ等1本ずつ調査を行い、巣穴木等の有無を確認した。

(写-11)



(写-10) 調査前の現地打合せ

イ. 調査結果について、岩手クマゲラ研究会と情報交換し、必要により合同調査を実施した。

ウ. 収穫調査

(ア) 岩手クマゲラ研究会に対し、ブナ林における漸伐方法について説明し、また、ブナ林伐採後における森林の育成についても十分説明した。

その結果、当署のクマゲラへの



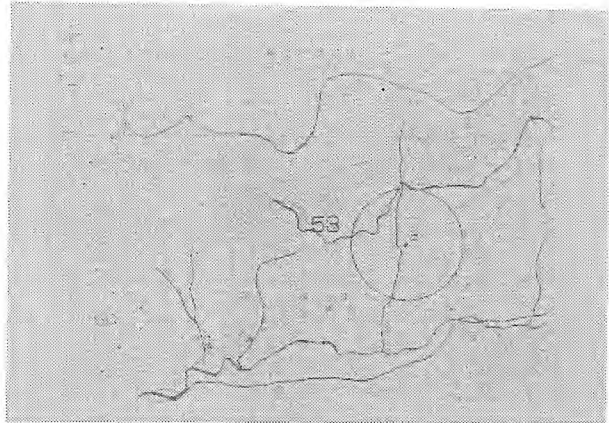
(写-11) 現地調査風景

対処とその区域の施業について、
理解を得ることが出来た。

(イ) 伐区の設定

現地調査の結果等を踏まえ、クマゲラに関する局通達を基に、B地点を中心とした半径200mの地域は禁伐区とし、それ以外に漸伐区を設定した。

(写-12)



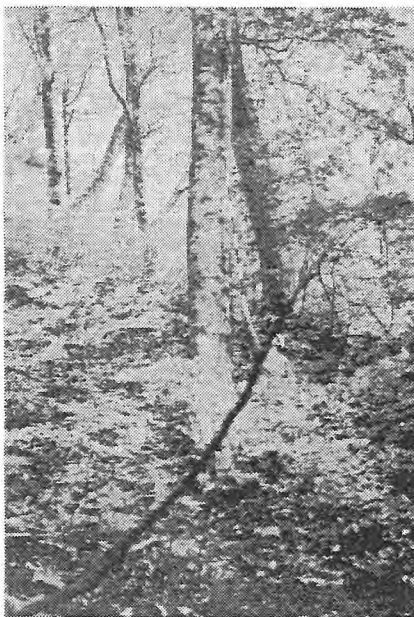
(写-12) 漸伐区設定図

(ウ) 伐採木、母樹の選定

伐採木については、林木配置、生育状況、稚幼樹の更新状況等を考慮して選木した。

母樹については、適正配置に努め、将来、営巣木となりそうな特徴を持ったブナについても保残した。(写-13)

また、今後採餌木として使用される可能性があると思われる枯木について、安全性等の面で事業実行に支障とならないものを残存した。(写-14)



(写-13) 営巣木となりそうなもの



(写-14) 採餌木となりそうなもの

以上のような方法で収穫調査を実施した結果は、表-2のとおりである。

エ. 漸伐事業実行後について
(写-15)

漸伐区収穫調査内訳

漸伐区	面積 (ha)	材積 (m ³)	収穫率 (%)	林種	備考
1	1.32	208	63	ブナ・コナラ カシ・クヌギ	
2	2.38	208	36		
3	1.40	208	30		

(表-2) 漸伐区収穫調査内訳



(写-15) 漸伐実施箇所



(写-16) 末木枝条整理後

事業実行箇所については、次のような更新補助作業を実施することでブナ稚幼樹の生育を図っている。

(ア) 末木枝条の二次処分をして、資材の有効活用と跡地の整理を行う。
(写-16)

(イ) 林地除草剤を有効に使用することで、地表処理を行う。

(写-17)



(写-17) 林地除草剤使用後

これらの作業を実施することで、
ブナ二次林への移行を図っている。

(写-18)

4. 考察

以上のように、クマゲラ生息の可能性と
ブナ林地帯における天然林施業について述
べたが、今後、クマゲラ生息の有無にかか
わらず、自然保護等、ブナ林伐採について
は、ますます国民からの意見や要望が高ま
ると思われる。



したがって、ブナ林地帯における天然林（写-18）祭時山国有林内のブナ二次林
施業については、施業地周辺における森林
踏査の実施、適正な収穫調査及び更新補助作業の実施、また、各団体との情報交換を密
にして森林生態系の保全を考慮した施業を実施しなければならない。

しかし、国有林野の使命である公益的機能の維持・増進、効率的な木材生産も重要な
課題である。

そこで、これらの調和を図り、適切な天然林施業を実施するために、今後も調査を進
めて行きたい。